

平成30年度 (平成30年12月実施)

## 「読書に関する調査」のまとめ

# 学校教育課通信

平成31年2月14日(木) 第145号  
編集・発行：県南教育事務所 阿部 央

平成30年12月に実施した「読書に関する調査」の県南域内の調査結果です。今回の結果を各学校での読書活動の推進、充実に役立てていただければ幸いです。なお、各市町村教育委員会及び各小中学校におかれましては、調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

### <平成30年度の調査結果及び過去2年間との比較と考察>

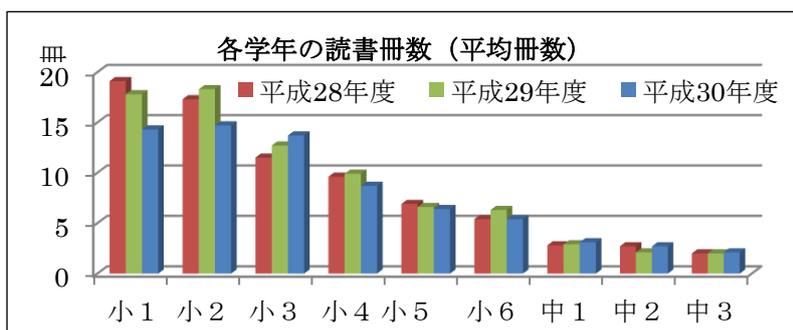
○ 人員 域内全小・中学校全学年 (1学級抽出又は全学級)

計 8,008人 (域内全小・中学校在籍者数の76.2%)

( ■ …3年間で1番よい ■ …3年間で2番目 ■ …3年間で1番低い )

#### 1 【平均読書冊数について】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
H28	19.1冊	17.3冊	11.5冊	9.6冊	6.9冊	5.4冊	2.8冊	2.7冊	2.0冊
H29	17.8冊	18.3冊	12.7冊	9.9冊	6.4冊	6.3冊	2.9冊	2.1冊	2.0冊
H30	14.3冊	14.7冊	13.7冊	8.7冊	6.4冊	5.4冊	3.1冊	2.7冊	2.1冊



○ 学年が上がるにつれて、読書冊数は減少しており、特に中学校ではどの学年も2～3冊で横ばいの状態である。下記の「読まない理由」も踏まえつつ、学年の実態に応じて、読書への意欲を高める工夫が必要である。

#### 読書したきっかけ (H30調査より)

項目	小学生	中学生
友達に紹介された	4%	8%
学校の図書館で見つけた	<b>56%</b>	9%
公共の図書館で見つけた	12%	5%
本屋で見つけた	10%	<b>60%</b>

○ 「読書をしたきっかけ」では、小学生は「学校の図書館で見つけた」の割合が半分を超え、中学生では「本屋で見つけた」の割合が半分を超えている。学年が上がるにつれ本屋で見つけた割合が高くなっていくが、中学校においても、さらに学校図書館や公共図書館の活用を図ることで、様々な本への興味が広がり、読書の意欲を高めることにつながると考えられる。

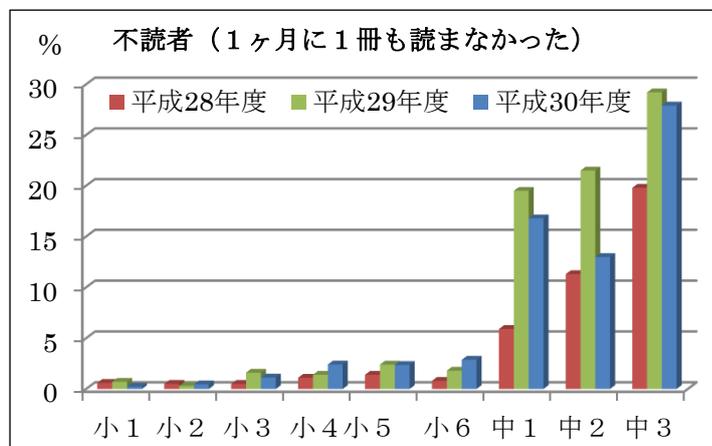
#### 読まない理由 (H30調査より)

項目	小学生	中学生
勉強・塾・宿題などで忙しい	7%	20%
部活動等で時間がない	6%	4%
<b>テレビの方が楽しい</b>	<b>24%</b>	<b>21%</b>
ゲームの方が楽しい	9%	18%
雑誌やマンガの方が好き	21%	11%
遊ぶ方が楽しい	8%	3%
本が嫌い	12%	9%

○ 本を読まない理由として、小学校では、第1位「テレビの方が楽しい」、第2位「雑誌やマンガの方が好き」、第3位「本が嫌い」となっている。中学校では、第1位「テレビの方が楽しい」、第2位「勉強・塾・宿題などで忙しい」、第3位「ゲームの方が楽しい」となっている。小・中学校ともに読書の意義を理解させ、そのおもしろさを味わわせるような指導の工夫が必要である。

## 2 【不読者(1ヶ月間に本を1冊も読んでいない児童生徒)について】

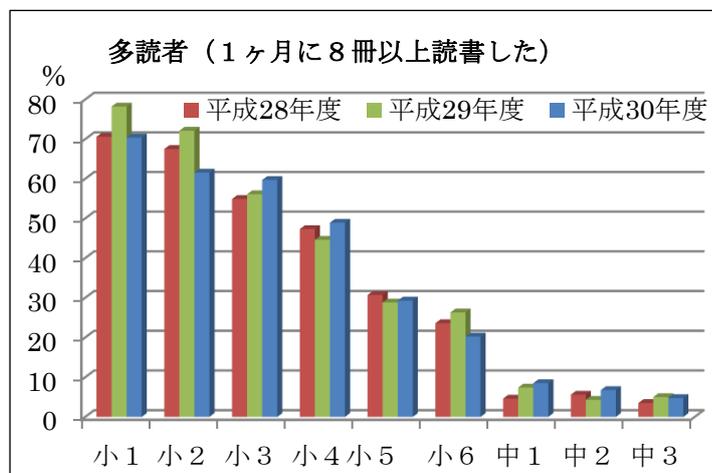
	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
H28	0.6%	0.5%	0.5%	1.1%	1.4%	0.8%	5.9%	11.3%	19.8%
H29	0.7%	0.3%	1.6%	1.4%	2.4%	1.8%	19.5%	21.5%	29.2%
H30	0.2%	0.5%	1.1%	2.4%	2.4%	2.9%	16.8%	13.0%	27.9%



- 小学校では、全ての学年で不読者の割合が3%未満、特に低学年では1%を切っており、ほとんどの児童が読書に取り組んでいることがうかがえる。
- 中学校では、昨年度の調査では不読者が大きく増加していたが、今年度は減少しており、各学校での取組の成果が表れている。ただ、1月に実施した「読書に関する調査」では、域内のほとんどの中学校で「全校一斉の読書活動」を行っているという結果になっており、そのことを考えるとまだ不読者率は高いといえる。

## 3 【多読者(1ヶ月に8冊以上の読書者)について】

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
H28	70.6%	67.5%	54.9%	47.3%	30.7%	23.6%	4.6%	5.6%	3.5%
H29	78.2%	72.1%	56.1%	44.6%	28.8%	26.3%	7.4%	4.3%	5.0%
H30	70.4%	61.5%	59.7%	48.9%	29.3%	20.2%	8.5%	6.8%	4.8%



- 学年が上がるにつれて、多読者の割合が減少している。特に、中学校においては、単純に冊数だけの比較では見えない部分もあるが、今後、多様な種類の本に触れたり、自分の生き方や考え方に影響を与えるような本に出会える場を設けたりしたい。
  - 国語科の授業では、単元の中に読書を位置づけ、「並行読書」の取組をしている学校も見られる。今後も、積極的にさまざまな本に触れる機会を設けることが必要である。
- ※「並行読書」…本教材と関連のある本を、単元の学習をすすめながら並行して読んでいく活動

※ 県教育委員会では、「子ども読書活動推進計画（第三次）」において平成31年度までに「本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合」の目標値を100%に設定しています。せめて1か月に1冊は、どの児童生徒も本を読む習慣をつけ、読書の楽しさ、よさを味わえるようにしていきましょう。

※ 新学習指導要領でも、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが大切である、とされています。特に、国語科の〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項が位置付けられており、国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められています。学校図書館の利活用と合わせて、児童生徒の読書活動の充実を図っていきましょう。